

和歌山県白浜町で採取された潮間帯に生息する生きた巻貝に 付着して成長したユウレイボヤ (ホヤ綱, ユウレイボヤ科)

久保田 信¹・新稲一仁²

Ciona savignyi (Ascidiacea, Cionidae) attached and grown on the intertidal gastropod
from Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan

Shin Kubota¹ and Kazuhito Niina²

¹ 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所 (〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459)

² 〒649-2334 和歌山県白浜町才野 1622-2222

はじめに

和歌山県西牟婁郡白浜町の海岸に普通に生息するユウレイボヤ *Ciona savignyi* Herdman (西川, 1995) は、様々な基質上で水の動きに影響され難いサイズの石をはじめとして、例外的に死貝・サンゴ骨格・ガラス壺等の人工物など様々な基質に付着するが (新稲, 未発表)、今回、珍しい基質である生きた巻貝シマレイシガイダマシ *Morula musiva* (Kiener) の貝殻に付着していた例を報告する。

記録

今から数年前の 4 月に、京都大学理学研究科大学院生数十名のインターラボの行事の一貫で、瀬戸臨海実験所のすぐ前 (南西側) の番所崎の磯浜生物の解説時に、参加院生によって本個体が採集された。直ちに譲り受け、生きたまま写真撮影をした (図 1)。ユウレイボヤは撮影時には収縮したが、巻貝の行動を抑制すると推察されるくらいよく生育しており、また、よく成長しているこの巻貝の成貝よりも体が大きくなっている。

ユウレイボヤは暗所を好み、幼生は変態時に

走暗性に転じ、転石の裏面や転石の下に存在する基質に付着する性質がある (新稲, 未発表)。シマレイシガイダマシは潮間帯に限定して生息しており、幼生が巻貝の貝殻に付着した場合でも、本個体の様に大きく成長できるのは極めて稀であろう。



図 1. 和歌山県白浜町産の生きたシマレイシガイダマシの貝殻上で生育したユウレイボヤ

引用文献

- 西川輝昭, 1995. 西村三郎編著: ユウレイボヤ科, *In* "原色検索日本海岸動物図鑑 II", pp. 587-588, 保育社, 大阪.